

平成 30 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会 主な Q & A

Q1：米国事業の展開について

A1：2017 年 8 月にスタートした米国セブン-イレブン約 8,000 店舗への ATM 設置は順調に進んでおり、来春までには終了する予定となっております。米国セブン-イレブン店舗で ATM が安定稼働することで、中期経営計画でお示した 2019 年度での経常収益 200 億円増は達成可能であると考えております。

収益を上げつつ、しっかり利益を確保することを目指し、ATM の更なる効率運用を進めてまいります。また新しい ATM サービスを開発・提供し、ATM をご利用いただくお客さまを増やしていく施策を進める一方、セブン-イレブン以外では不採算の ATM の整理を、セブン-イレブンでは ATM のコスト削減を徹底して進めてまいります。

Q2：ATM プラットフォーム事業における新たな ATM 利用スタイルの創造の進捗状況は。成長性はどうか考えているのか。

A2：決済事業に新たに参入した事業者と ATM 提携を進め、新しい ATM サービスの提供は順調に進んでおります。2017 年 8 月にはソフトバンクカード、10 月には LINE pay の利用がスタートし、いずれも堅調なスタートになっております。ATM 受入手数料に関しては既存提携金融機関との手数料と大きく乖離しないよう設定しております。

今後も様々なデジタル決済が拡大していくと思われませんが、デジタル決済が広まれば広まるほどチャージや引出しを行うリアルなチャネルへのニーズが高まり、成長の可能性は大きくなると考えております。

現金受取サービスは来春のスタートを目指して、子会社設立等の準備を進めておりますが、スタート段階からサービスを提供する提携先にも目途がたっております。マーケティングにより、当初想定した現金受取シーン以外にも非常に多くの送金・受取ニーズを確認することができました。多くのお客さまにこのサービスをご利用いただけることを期待しております。

Q3：ATM 受入手数料の単価の見通しについて

A3：ATM 受入手数料の単価については、上昇要因としてノンバンク取引の利用件数の伸長、下降要因として提携金融機関とのボリュームディスカウントや LINE Pay 等の新規サービスの拡大がございます。当面は上昇要因・下降要因ともに大きな変化は無いと考えており、ATM 受入手数料の単価の大きな変動は起こらないと考えおります。

以上